

中塚さちよ

がんを乗り越え、元気に働いています！

ご挨拶

昨年4月に行われた世田谷区議選において、中塚さちよは4期目の当選をさせていただきました。

前任期中は病気治療でご迷惑をおかけしましたが、現在は軽快し、多くの皆様の支えに感謝しながら元気に働いております。私は幸運でしたが、今も病に苦しむ方や無念にも生きられなかった人達がいるということを、いつも忘れる事はありません。

介護の仕事も携わり早や20年。ケアマネジャーとして現在も現場に出る中で、日々この仕事のやりがいとともに、深刻な人材

不足など介護を取り巻く環境の厳しさを痛感しています。ワークはハードではありますが、体の続く限り頑張りたいと思っています。

昨年は自然災害に加え、増税・軽減税率の導入、公文書改ざんなど政治の混乱に翻弄された1年でした。本年も人々の苦難に寄り添い、現場の声を区政に届けるとともに、地域の皆様と協力しつぶやく誰もが住みやすく魅力ある地域社会づくりに尽力してまいります。何卒よろしくお願い申し上げます。

議会質問・提言（令和元年 第4回定例会・代表質問から一部抜粋）

■甚大な浸水被害発生！

——風水害を想定した災害対策について

台風19号では、収容人数を上回る区民が避難所に避難し入りきれない、避難所が川を越えた場所にあり水害時の移動に危険、といった課題が浮き彫りとなりました。避難所スペースが限られた中で、受け入れする人の優先順位を明確にし、受け入れ状況をホームページ・SNSで周知する等の対策を求めました。



■小規模事業所に不利な加算制度！

——介護従事者の待遇改善について

介護人材確保に向け、「経験10年以上の介護士の給料を月額8万円アップする」として話題になった特定待遇改善加算ですが、小規模な事業所では取得している割合が低い現状です。区内事業所の実態把握を行い、小規模事業所も職員の待遇改善が行えるよう区の支援を求めました。



■子どもたちの安全安心を守る！

——里親制度の充実について

来年4月予定の児童相談所開設に伴い、保護した子どもの居場所が必要となります。一時保護所だけでは不足であり、家庭的な環境で過ごせる里親を区が責任を持って増やしていくかなくてはなりません。広報に実績のある福岡市などの先進自治体を参考に、効果的な取り組みを求めました。

■真の平和の実現に向けて！

——平和教育の推進について

昨年11月にローマ教皇が来日、全世界に核兵器廃絶を訴えました。日本が核兵器禁止条約に批准せず、世田谷区議会でもわが会派が提案した「日本政府に核兵器禁止条約の署名と批准を求める意見書」が全会一致とならず否決されたことは甚だ遺憾です。今の政治家達が実現できない核兵器の廃絶に向け、国際社会に対し声をあげ行動できる若い世代を育てるための取り組みを区に求めました。

中塚さちよ プロフィール

■1975年 札幌市生まれ。

介護福祉士、介護支援専門員。

■成城大学大学院及び明治学院

大学大学院修了（文学・社会
福祉学修士）

■特別養護老人ホーム及び訪問
介護事業所勤務

■衆議院議員小宮山洋子事務所

政策スタッフ（介護保険・障害
者政策担当）

■民間シンクタンク研究員として勤務

■現在、世田谷区議会議員（4
期）。民間事業所ケアマネジャー
としても勤務。



世田谷区議会議員

衆議院議員（東京6区）

中塚さちよ × 落合貴之

世田谷りつけん対談

地域社会の現実に
政治はどう向き合うか？

■「単身急増社会」に政治は応えられていない

落合：昨年の統一地方選挙で、立憲民主党は東京も世田谷も男女が半々ずつになった。これまで女性が少なすぎて、女性の声が届かないところがありました。教育にしろ福祉にしろ、実際に家で担っているのは女性なのに。本当はそれではダメなんだけど…！一方で、世田谷区は一人暮らしの女性も多く、そういう人達の声は届いていない。シングルの女性に対して政治が何もしてこなかった。

中塚：「結婚できないのか」と野次をとばしたり、「子ども最低3人産んで」などと言った人もいましたが、結婚や出産について政治家に”上から目線”で物を言われたくないですね。そんなことより、現実を直視して、単身女性も老後暮らしていくための社会保障制度を考えていくのが議員の仕事ではないでしょうか。

落合：バブル以降、国民の生活が変わってきた。高齢化率が上がり、社会の変化に政治が対応できていません。それで、全世代型社会保障の議論が始まっています。年金問題以来十数年ぶりに社会保障が注目されています。65歳以上の単身高齢女性が一番貧困率が高いのですが、独身女性の声が政治家に届いていない。そこをこれから改善していくなくてはならないと思っています。社会の変化に対応できていない政治に、新しい視点をしっかりと入れて対応できるようにする、立憲民主党はそういう政党であるべきです。

中塚：立憲民主党は前からLGBTなど、いわゆるマイノリティに光を当ててきましたが、今はそれが潮流です。単身世帯というのはとっくにマイノリティではありません。私自身、長く独身だったし子どももいませんが、そういう女性は今周りにとても多い。区議会で立憲は「子ども第一」を掲げていて、待機児解消、虐待防止などが最重要課題ですが、私は「女性議員=子育て政策」ばかりではないというところをやってきました。今一番増えている将来に不安を抱える人達が、区政から一番遠いところにいる。これでは投票率も上がるわけがありません。

■新しい人材がもっと活躍できる場所づくりを



落合：同じ首相がずっと続いている間に、間違いを直すきっかけがないというのが今の長期政権の問題点を感じています。株価は上がったが実質賃金は下がっている。国民一人一人は貧乏になってしまっているのに、この経済政策をずっと修正できていない。やはり一定の期間で政権が代わることが必要です。今すぐ政権交代できるの？といわれると、野党が一番問題なのは人材面。野党で選挙

に出て当選できる人が10年近くいなかった。元大臣とか有名な人しか当選していない。若い人、新しい人材が活躍できるような場所をつくっていく必要があります。これからはやっぱり女性かな。そのサポートを僕自身もしていきたいと思っています。

中塚：連続2期当選した落合議員にはまさに若手の先頭に立ってくれることを期待しています。区議会の立憲には、昨年の選挙で、新人といっても私より年長で社会経験を積んだ女性達が入ってきました。早速しっかりした議会質問もされていて、私も大いに刺激を受けています。



落合：それぞれ専門性があり即戦力になる人を擁立できた。その中で中塚さんは介護の専門家ですが、政策では社会保障に力を入れてほしいというのが世論調査でも1位で、年金以外はほとんど区か都の仕事となっている。議会に陳情をするにも、現場でやっている区議会議員がいるというのは貴重なことだと思います。中塚さんにはそういう点で窓口となって、区民の皆さんのために働いてほしい。

中塚：区議を4期やらせていただいて、世田谷は広いですが、介護のことに関してはほんとうに区内全域から、色々な相談やお説明をいただくようになりました。とても嬉しくやりがいを感じています。

■どんな人も地域に根付いて暮らし続けられる社会に

落合：人口減少時代に、世田谷区は珍しく人口が増えています。若年層の人口も増えている。外の人が世田谷を選んでくれて、根付く人も多い。僕はたまたま世田谷生まれ世田谷育ちですが、区長だって元々は区民ではない（笑）。そういう人が選ばれている。どういう人たちも活躍できる場が“世田谷らしさ”なのかなと思っています。色々な出自の人たちが活躍できる良さを残していくことが、ひいては日本の発展にもつながっていくのではないかなど。

中塚：私のような地方出身者がこの世田谷にも多いわけですが、はっきり言って生活は大変。憧れの街に来て、一人暮らしで仕送り貰ったり働いているうちはいいけど、子どもができたり、年をとって介護施設に入るとなったら、お金がかかってやつていて出していく人も実は少なくありません。住み慣れた地域で子育てし介護を受けるということが、当たり前ではなく贅沢品になってしまっている。こんな社会はおかしくないですか？！

落合：ええ、だから変えなきゃいけない！ 共に頑張りましょう！！

「自治体議員がん政策研究会」 を立ち上げました

[Facebook ページ](#)

自治体議員がん政策研究会

検索



左から、小林ひろえ八王子市議会議員、筆者、
酒井なつみ江東区議会議員、高木さとこ狛
江市議会議員、田中ゆきえ新宿区議会議員

・ご意見・感想等お寄せください・

発行

世田谷区議会議員

中塚さちよ事務所

〒156-0054

東京都世田谷区桜丘2-20-10 築野ビル303

TEL: 03-3429-6078

FAX: 03-4586-6343

MAIL: nakatsukasachiyo@gmail.com